

史実の推理と叙述のスキル

☆教員より

学生の多くが指導方法や教育技術を求めて、基礎知識の修得を疎かにする傾向にあります。豊かな教育活動を計画し、実際に展開するためには、その土台となる教養が不可欠です。学生時代にこそ書物と向き合い、先人が積み上げてきた教育理論および実践記録から大いに学んでほしいと願っています。

教育史学ゼミでは、資料にこだわります。研究課題を設定して、史実を探究する際、主観に偏った解釈を慎まなければなりません。研究論文を書くにあたっては、足を使って史料・資料を集め、それを吟味するために頭を捻ります。自分の考えを文章に表す作業には怖さを伴いますが、客観的そして実証的に論じることができた時、この上ない喜びを得ることができます。学問・研究の醍醐味を味わえるゼミで、ともに学びましょう。

☆ゼミ活動・フィールドワーク

2年生の演習では、ゼミ生で決めた書籍や論文を講読します。一人では分からなくても、ゼミ生同士で疑問を出し合い、意見交流をしながら読み進めていくことを通じて、新しい理解や気づきがあります。

3年生の演習では、研究テーマを決めて、各自が深掘りします。4年生では、卒業論文の完成にまっしぐらです。

フィールドワークについて、コロナ禍では実施できませんでしたが、令和5年度は広島・岡山、令和6年度は台湾（台北）に行くことができました。

事前の準備として、訪問先の歴史や文化、地理などを把握しておきます。現地への移動手段や経路を考えることも重要です。

自分たちで計画を立て、さらに現地で見聞を広めることで、学びが発展します。学校見学など、例年多様な経験を得ることができています。

無知な「私」を自覚することが、学びの出発点です。



☆最近の卒業論文テーマ



- ・紙芝居作品の教育的意義について－1950年代における稲庭桂子の作品に焦点をあてて－
- ・明治初期の筑摩県における学校設立と就学督励－永山盛輝の教育施策に焦点をあてて－
- ・岡山孤児院における音楽幻燈隊の活動に関する考察－その成果と諸問題に着目して－
- ・戦時期における絵本の内容の変化－「児童読物改善ニ関スル指示要綱」を中心に－
- ・1950～60年代の三重県における同和教育の実践と成果に関する研究－同和教育研究会に焦点を当てて－
- ・昭和40年代における幼稚園教育改革に関する一考察－三重県の保育の質的变化に注目して－
- ・昭和戦前期における海軍飛行予科練習生が受けた英語教育－第14期乙種飛行予科練習生の学習物に焦点を当てて－

☆卒業生の近況

卒業後のゼミ生について、保育士、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教諭、児童養護施設の職員、市役所職員、警察官、保護観察官、企業などに奉職して活躍しています。大学院に進学して研究活動を継続している人もいます。

個性的なキャラクターを持ち、バラエティに富んだ卒業生ばかりです。

